

## 平成27年度 第3回豊田市スポーツ推進審議会 会議録

【日 時】 平成28年2月22日(月) 午後3時00分～5時00分

【場 所】 豊田市役所 教育委員会議室

【出席者】 (委 員) 高橋 義雄 (筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授)《会 長》  
勝亦 紘一 ((公財)豊田市体育協会 副会長)《副会長》  
熊谷 謙蔵 (豊田市区長会 理事)  
兵藤 おさみ (豊田市スポーツ推進委員協議会 副会長)  
藪押 光市 (豊田商工会議所 事務局長)  
本多 重之 ((一社)豊田青年会議所 副理事長)  
徳増 年彦 ((株)豊田スタジアム 取締役営業部部長)  
中井 久美 (豊田まちづくり(株) 地域事業部リーダー)  
廣瀬 佳司 (トヨタ自動車(株)人事部 トヨタスポーツ強化グループ主幹)  
里園 友紀 (エフエムとよた(株) ラジオラヴィートパーソナリティ)  
北垣 啓子 (公募委員)

【欠席者】 (委 員) 高橋 繁浩 (中京大学スポーツ科学部 競技スポーツ科教授)  
徳田 康 ((公財)愛知県サッカー協会 専務理事)  
町田 淳 ((株)名古屋グランパスエイト マーケティング部長)  
桑田 厚司 (愛知県ラグビーフットボール協会 理事長)

【事務局】 福嶋 兼光 (教育委員会教育長) 官川 龍也 (教育行政部長)  
大谷 哲也 (教育行政部副部長) 伊藤 勝介 (スポーツ課長)  
杉山 寿美雄 (スポーツ課副課長) 梅村 靖之 (スポーツ課担当長)  
畔柳 隆二 (スポーツ課担当長) 上山 輝 (スポーツ課主事)

【傍聴人】 0人

【次 第】 1 審議会委員アンケートまとめ  
2 スポーツコミッションの方向性について

## 【会議録（議題部分のみ）】

### ■議題（１）審議会委員アンケートまとめ

事務局：資料に基づき説明（資料１）

会 長：様々なスポーツコミッションの機能・役割がアンケート調査で出たと思う。時間軸で見て、目前に迫っている２０１９年のラグビーワールドカップや既に実施している大会等でおもてなし機能のブラッシュアップが必要であるという意見が大前提としてある。また、どのような合宿を誘致するか、新しい大会の創設や誘致ができる機能が必要という意見もあった。他にも、アウトドアスポーツでは、競技スポーツ以外とのネットワークをいかに構築するかが大事であり、それを担う人材も育てていく必要があるとの意見があった。

事務局の説明事項について、ご意見ご質問等あれば。

委 員：トヨタ自動車には８つの強化運動部があり、地域貢献活動を行っていききたいという意識がある。平成２７年３月から強化運動部は「産・学・官」連携で始まった「夢の教室」に派遣させていただいている。トヨタ自動車としては地域貢献活動も出来る上に、強化運動部のPRもできているし、行政的にも次世代育成の視点から利点がある事業だと思うため、お互い利点のある事業ということで行政と良い関係が築けていると思う。今後も、地域貢献活動に取り組んでいきたいと思っている。

委 員：スポーツツーリズム、スポーツコミッションの必要性については理解ができた。ただ、いろいろな角度からの取組が必要となってくる。例えば、競技について私は専門知識を持っていないが、地域に根差したスポーツを推進していくという立場から考えると力になれると思う。将来的に考えると、子どもたちがスポーツをいかに体験していくのかを考えていく必要があると思う。現状、豊田市には立派な施設はあるが、施設までいく交通面が悪すぎる。子どもたちにとっては、交通面の悪さは重大な問題であると思う。当面は運動公園についても重要な施設として捉え、スポーツツーリズムを考えてほしいと思う。

ワールドカップは目前に迫っているため、時間が限られている。そのため、早く動き出さなければ間に合わないと思う。

会 長：スポーツをする環境が整わないとスポーツをする人が増えないということがスポーツ庁で言われており、どうスポーツをする環境を整えていくのかという「スポーツ環境デザイン」が議論として出ている。例えば、普段から歯磨きをしているようにスポーツをするような環境ではないとスポーツをする人が増えないし、公共交通機関や大人の送迎がないとスポーツができないような環境では、スポーツをする人を増やすにはハードルが高いと思う。スポーツコミッションと同時に、スポーツ環境をどう整えていくかということも考えていかなければ、市外から人は呼べない。

また、子どもたちがスポーツをする環境を良くすると同時に、指導者や審判などサポートする人材も育てていかなければならない。市外から人が来ても、審判ができる人がいなければ受け入れることができない。基礎的な部分のスポーツ環境整備という点も重要なポイントとして考えていく必要がある。

委 員：交通アクセスが悪いということについて、国道２４８号線にバスが一本も通っていない。まちの中心の国道にバスが通っていない状況をどう捉えていくのかを考え、取り組んでいかなければいけないと思う。

宿泊施設についても豊田市の主要なホテルは、名鉄トヨタホテル、ホテルトヨタキャッスル、

ホテルフォレストしかない。他のビジネスホテルは中国の爆買いで満室状態。3つのホテルは一般客の利用もあるため、イベントがあるたびに3つのホテルを専用で使うのは難しいと思う。そのため、市外のホテルに宿泊をした場合、ただ単にホテルから大会会場までシャトルバスを運行するだけではなく、観光地も経由する等の仕組みを作っていかなければいけないと思うし、山間部の民泊などにも募集をかけて、利用してくということも手段として良いと思う。

また、足助などの中山間地で体験型プログラムを体験してくる外国人が増えていると聞く。そのため、シャトルバスを運行した際に宿泊施設と大会会場間の行き来だけではなく、観光地にも経由するといった工夫もしていく必要があると思し、早い段階で決めていかないとけない。

会 長：人が滞在することを可能にするような、おそらくスポーツ課ではない課や組織に当たって見なければいけないというご意見だと思う。スポーツ庁でもそのようなことを実施しようとしている。ホテルについては、例えばどのような大型ホテルが必要になってくるのかなど議論しなければならない。ただし、2019年のワールドカップのみで終わらせるだけではなく、継続して実施してく仕組みを考えることをしなければならない。2019年は目前のため、大至急進めなければならない。

委 員：おいでんバスは豊田市で運営しているため、実験的においでんバスを運行させても良いと思う。

会 長：運行の仕方も、スポーツ施設は必ず経由するなどの工夫も良いと思う。

委 員：市民の幸福感や満足感、人とのつながりが重要という意見やノウハウの蓄積が必要という意見については、市民に直接関係がある事項だと思う。市外の人を招いておもてなしをする前に、豊田市民が豊田市のことについて分かっているかと思し、豊田市の施設や財産がどれだけ良いものか分かっていないといけなと思う。

指導者や審判を増やす必要があることについては、派遣される人を養成する研修を市が主催して行うことで、指導者や大会をサポートできるノウハウを持っている人材の母数が増えると思う。そして大会主催者が募集をかけるなどして、養成した人材を活用していくことができれば良いと思う。また、スポーツの現場から一旦離れた人が大会のサポートをしてくれば、生涯スポーツにもつながることだと思う。

更に、ホスピタリティについては、地元の人を楽しみと感じてくれるようになると大会自体も盛り上がると思うし、温泉などの観光資源についても市民がまず体験することで楽しみ方や魅力を感じ、市外から来た人にそれを伝えることが大切だと思う。

会 長：スポーツ環境デザインにもつながる話であり、部活動から変えていくことも一つの手段として必要だと思う。例えば、練習後に帰るだけでなく、温泉に入ってから帰るといった日々が積み積もっていくと、「スポーツと風呂」だとか「スポーツと食事」というスポーツとセットとなった考え方が身近になると思う。現在は、まだそういう考えには及んでいない。どのように子どもたちに経験をさせていくかが大事となる。

一例を挙げると、秋田県や北海道のスキー場では、雪を圧雪してコースを作る人が大勢必要である。昔は若い人がそれを担っていたのだが、30年経ってもその人たちが行っているため、高齢者ばかりになってしまっている。高齢者だけではコースが作れないため、自衛隊がコースを作ったりしないと国際大会などが実施できないという現状にある。豊田市は、高齢

化や過疎化という問題は現在あまりないと思うが、長い目で見たとときに大会をサポートしている人たちが高齢者ばかりになったとき、大会が回らなくなると思う。そのため、次世代を担う若い人に大会をサポートする仕事も楽しいと感じてもらえるようにしていかなければならない。

また、中山間地のラフティングなどについては、地元の人よりも先に、海外の人が優れた資源と気づき、地元以上に海外の外資がレジャーを開発してしまうということがある。それが地元にとって快く受け入れられていることなのか、もしかしたら辛い気持ちもあるかもしれないが、スポーツツーリズムをする上では、考えられるケースであるし、実際に起こっている。全く外資を入れずにスポーツツーリズムを行っているところは野沢温泉で、地元の人々で協力してスキーのまちづくりを行っている。

委員：トヨタスポーツセンターのバックネット裏で、チームを応援する市民を見たことがない。近所の人たちからは、中京大学やトヨタスポーツセンターには入りにくいと聞く。名古屋グランパスの練習会場にもファンが少ない。市外に目を向けてみると、高校野球の名門校の野球場のバック裏は非常に賑わっている。そのような雰囲気や豊田市も作っていく必要がある。大学生も、市民が練習を見に来てくれるとモチベーションが上がる。そのような雰囲気をどう作り上げるか、豊田市の課題だと思う。

豊田スタジアムに関しては、例えばスターボックスを建ててしまえば雰囲気が変わると思うが、法律で禁止されているようだ。豊田スタジアムのレストランは町並みもきれいに見えるし、観客席も座れることができる立派なレストランであるため、豊田市民ももっと利用してほしいと思う。海外のスタジアムは、スタジアムにプールやホテルを併設している。日本のスタジアムについても、海外のスタジアムを参考にすべきだと思う。

会長：海外のスタジアムではスーパーやホテル、高齢者施設などが併設されており、試合会場以外としての施設も運営されている。

アウトドアスポーツについては、ウォーキングやサイクリングする人のために看板や標識を設置したりすると、必ず警察と衝突する。そのため、各機関との調整も必要になる。

委員：豊田スタジアムの周りの土地について、行政としての将来計画はどのようになっているのか。

豊田スタジアムでイベントがあるときは、近隣の商業施設に車を停めたりする人が多く、商業施設から苦情があると聞く。

事務局：豊田スタジアムは中央公園として位置づけられており、全体の計画はある。ただし、どのような用途として開発をしていくかについては具体的な方針は決まっていないというのが現状。

委員：市民からは取組が遅いとの声も聞く。急いでいただきたい。

委員：どのようなまちにしたいかということ決めた上で、どうスポーツコミッションを機能させていくかが重要だと思う。取組の順番が異なると、良い形として機能ができないと思う。

会長：豊田市の基本計画をベースにして、スポーツコミッションをどのように機能させていくかが大事。

福岡が2021年の世界水泳の誘致に成功した。スポーツ庁と連携を密にして誘致成功につながった。例えば、2030年に向けてどのようにしていくかなど、将来計画をある程度イメージしていかなければ、世界大会については誘致が難しい。

委員：スポーツコミッション自体は、支える機能なのか発信していく機能なのか、若しくは両方なのかを明確にした方がよい。また、新たに大会などを実施するのか、既存の大会などを利用

して取り組んでいくのかについて、方針を絞っていかなければいけないと思う。

個人的には、情報発信や中心的な組織を作りながら、支える機能になると思う。地域に根差した活性化について、地域が所有している財産とスポーツを掛け合わせて地域活性化にもっていくことがスポーツコミッションの新たに取り組んでいく機能だと思う。既存の大会や計画している大会などは、大きなイベントであれば人が集まると思う。新たに豊田市の財産を活用して呼び込むのであれば、何かを掛け合わせる機能を核として作ると新しいと思う。

また、一部の中学校では部活動よりも習い事をしている子どもが多く、部活動がなくなっていると聞いたことがある。まずは、時代や環境の変化もあるが、まずは部活動をしていく学校に教育上した方が良くと思う。

会 長：機能について絞っていくという考えは、組織の規模にもよるとは思うが、優先順位をつけて取り組むことは非常に重要だと思う。既存の資源をいかにブラッシュアップするかが重要となってくる。

Jリーグアルビレックス新潟は、例えば翌週にアルビレックス新潟と試合をするアウェイチームの試合会場へ訪れ、新潟をセールスし、地元の居酒屋のクーポン券などを配ったりする活動をしており、地元から全く関係ない場所でスポーツツーリズムを働きかけているという事例もある。

委 員：豊田市民でもスポーツが好きな人や豊田市の魅力を知り、誇りを持っている人もいればそうでない人もいる。豊田市民を対象にした事業を実施し、それが話題となり豊田市外にも情報発信される場合や、豊田市外を対象とした事業を実施し、市外県外から訪れた人から豊田市民へ情報発信され、豊田市民が豊田市の魅力について気づく場合もあると思う。このような仕組みを利用できれば、イベントも盛り上がっていくと思う。

会 長：スポーツは口コミで広がることもある。そのため、大学や企業のOBの方をうまく活用し、口コミで広めていくことも手段としてあると思う。

委 員：まず何をやるか決めてから、それに向けて集中的に実施することが大切だと思う。他にも大切なことはあると思うが、優先順位を決めて実施をすることが大事。

会 長：スポーツ推進委員協議会では、取組の必要性が高い事業について話題となっていることはあるか。

委 員：個人的な考えだが、マレットゴルフの場所は多くあるため、マレットゴルフ協会をつくって重点的に実施することが大切だと思う。市民も楽しんで実施できるため、非常に魅力があるスポーツだと思う。

委 員：スポーツコミッションの活動類型とその業務内容については、どれも豊田市として取り組むべき事項だと思う。ただし、まちづくりを含めた中長期的な視点から考えることも大事ではあるが、時間軸を意識して取り組むことが大事だと思う。個人的に感じていることは、8つの機能に並行して取り組むのではなく、特化して取り組むべきだ。具体的に、世界的大会であるラグビーワールドカップは3年後に迫ってきている。その中で取り組まなければならないことは山積していると思う。委員各々、やりたいことや大事に思うことはあるとは思うが、イメージとして具体的にまとまっていないことが現状としてあると思う。そのため、ラグビーワールドカップに向けてどう取り組むのか、運営や交流型イベント、合宿、情報発信など問題は多岐に渡るため、関わる人はイメージがしやすいと思う。ラグビーワールドカップは、世界に発信できるまたとない機会である。宿泊施設の問題も然り、2026年アジア大会が

愛知で開催された際を想定して、近隣市を巻き込むなど愛知県としてどう取り組んでいくかという視点を整理した上で取り組むことが大事だと思う。

ラグビーワールドカップを契機に、少しずつノウハウが蓄積されれば、他の分野でどうすれば良いか見えてくると思う。

委員：スポーツコミッションは、ラグビーワールドカップがあるから立ち上げるのか、終わったらそれで終わるのか、継続的に進めていくのかどちらか。

会長：国の計画では、地域づくりのためにスポーツコミッションを立ち上げることが国の方針としてある。豊田市も、そのような国の方針に継続的に取り組んでいくものだと思う。そのため、ラグビーワールドカップがあるから立ち上げるというわけではなく、国の計画に基づいて組織を立ち上げようとしている。ただし、全て国の方針どおりにしなければいけないということではなく、豊田市にあった組織を立ち上げていくことが大事だと思う。

委員：行政も同じ意見か。

事務局：基本的には会長と同意見である。ラグビーワールドカップのためでもあるが、豊田市には様々なスポーツ施設や観光資源があるため、それを統一的・戦略的に活用していくため取り組む組織であり。ラグビーワールドカップが終わっても継続していく組織である。

会長：組織を来年度立ち上げるにあたり、今年度はどのような方向性の組織にするのかという議論をしていく。

委員：継続的な組織であれば良い。豊田スタジアムを活かしたまちづくりのような、組織は立ち上げたが消えてしまうようなことになることだけは避けてほしい。

事務局：スポーツだけでなく、文化などにも応用していくための組織であるため、継続していく組織ということで理解をお願いしたい。

委員：中心市街地には豊田スタジアムやスカイホールの大型施設はあるが、365日の中でみるとその施設で開催されている大型スポーツイベントは日数が限られている。連携するまちなかの商業施設についても、1日2日だと協力がしづらい部分がある。毎日が商業施設と連携できるような得策があれば、数日間の大型スポーツイベントでも連携がしやすくなる。合宿については、大会の日数よりかは滞在が長いと思う。そのため、全国や世界に向け豊田市で合宿をする利点が発信でき、合宿が誘致できれば様々なスポーツと触れ合う日数も長くなると思う。

桜城址公園でトヨタ自動車ヴェルブリッツや名古屋グランパスが練習しており、近隣の住民はとても楽しみにしていた。そのような触れ合うことのできる練習や合宿を誘致していくことも良いと思う。

会長：1年に数日間しか開催しないスポーツイベントが、商業的に関わりづらいという意見はもつともである。どうすれば365日フル稼働し、人が集まるようなアリーナスタジアムになるのかという考えはヨーロッパやアメリカの発想で、そのような発想をいかに真似ていくかが大事。

海外には、トレーナーと食事を兼ねそろえた世界でナンバーワンのトレーニング施設がある。ハンマー投げの室伏氏もそこでトレーニングしており、世界中のスポーツ選手はそのトレーニング施設に集まっている。つまり、ただ単にスポーツジムを運営するだけでなく、世界のトップレベルを呼ぶとなるとそれなりの施設や特徴が必要となってくる。

また、岩手県紫波（しわ）町では、駅前のアリーナとサッカー場、図書館を一緒にし、年間

17万人が歩く駅前にしたら居酒屋が次々に進出してきたという事例がある。スポーツを核としたまちづくりとしてスポーツ界では非常に重要な事例として注目されている。

## ■議題（２）スポーツコミッションの機能イメージ

事務局：資料に基づき説明（資料２）

会 長：スポーツ都市ビジョンの３つの取組・方針について、特に（仮称）ハイブリットスポーツシティ豊田についてご意見ご質問等いただきたい。

委 員：様々な機能を掛け合わせる機能をスポーツコミッションの軸にすると良いと思う。ラグビーワールドカップでテスト的に実施しても良いと思う。例えば、旭観光ツアーや足助観光ツアーをチケットとペアにして提示し、観光客に好きなものを選んでもらうのも良いと思う。沖縄スポーツコミッションのように観光地などを分かりやすくまとめたパンフレットを作成するのも一つの手段であると思う。マッチング機能を軸にして、開催される様々なスポーツイベントごとで、観光やイベントとマッチングさせると良いと思うし、それをテスト的にラグビーワールドカップで実施しても良いと思う。

会 長：マッチング機能は重要だと思う。

個人的には、トヨタ自動車の工場見学も人気があるので、子どもたちがスポーツ合宿をした後にトヨタ自動車の世界最先端の工場を見学というプランをつくり、子どもたちが家に帰って家族に話をしてくれるような仕組みになれば良いと思う。

委 員：スポーツをきっかけとして、豊田市に来た人に多岐に渡りプロモートしていくのが大事だと思う。その一つにトヨタ自動車工場見学があっても良いし、小原和紙づくり体験があっても良いと思う。地域の伝統や文化に触れることができるようなプログラムが積極的にアピールできる仕組みがスポーツコミッションの機能としてあれば良い。

委 員：中山間地域の人々と連携をとってプランを作っていければ良いと思う。

委 員：全市的にまちづくりに取り組んでいる地域やこれから取り組む地域など様々あるが、小原や旭などはまちづくり計画が策定されパンフレットも作成されている。まちづくりに関する情報をスポーツ課だけでなく、行政の各部署で連携し、中心市街地のみ商業や観光だけでなく全市的な取り組みとして情報入手しPRしていくと各地域からの協力も得やすくなると思う。

会 長：豊田市の基本計画やまちづくりの計画にもスポーツコミッションを融合させるということは大事だと思う。

委 員：豊田市には、地域で運行しているおいでんバスや名鉄バスがあるため、バス会社も関わっていけると良いと思う。

委 員：豊田スタジアムに試合観戦に行ってもそのまま家に帰る人が多いと思う。そのため、例えば試合観戦後は豊田スタジアムのレストランを利用してもらえそうな仕組みや、利用を促すような情報発信ができれば良いと思う。紙媒体では伝わらないため、インターネットをうまく活用して情報を知ってもらうようにできれば良い。

観戦チケットに抽選を付けるなど、サッカー観戦するだけに終わらせないような工夫が必要。

会 長：現在、どのような空間でファンコミュニティがつくられているかが研究されている。ファンコミュニティが作られている空間は座席ではなく、例えば通路で座っている人たちの空間であったりする場合もある。日本は、そのような考えに遅れをとっており、通路に座ることは

禁止にしたりしているため、どのような空間でファンコミュニティがつけられているのかについて考えていく必要もある。

委員：名古屋グランパスの選手やトヨタ自動車ヴェルブリッツの選手が好きな食べ物やお店などの情報が発信できると良いと思う。

委員：沖縄は観光なしでは行政が成り立っていかないから、スポーツコミッションに真剣に取り組んでいると思う。豊田市は自動車産業が盛んなため、沖縄や他市のようにスポーツコミッションに力を入れなくても行政は成り立つ。そのため、豊田市はスポーツコミッションを真剣に取り組むのか。真剣に取り組むのであれば、庁内の各課や観光協会と連携していかないといけないと思う。

事務局（産業部）：豊田市では、観光協会の組織について機能強化を図るため見直しをしている。いずれは、スポーツコミッションと融合するような組織になれば良いと思っている。  
また、スポーツコミッションは、まちのためや市民のために取り組む事業である。いかに、市民を巻き込みながら実施していくかが重要な要素ではないかと思っている。

委員：事務局資料の第1期は目前である。そのため、来年度、組織体制を考えていては遅いと思う。  
早い段階で動いていかなければならない。名古屋グランパス戦のツアーなど、スポーツと観光の融合した事業をテスト的にでも良いため早めに実施していかなければラグビーワールドカップまで時間がない。

2027年のリニア開通に関しても、豊田市としてのビジョンをはっきりさせて見据えていかなければならないと思う。

会長：時間的な部分は非常に重要なポイントだと思う。逆算すると、2019年に間に合わないため重要な事項として捉える必要がある。

事務局から来年度の進め方について説明をお願いしたい。

事務局：来年度審議会の進め方について説明。

以上